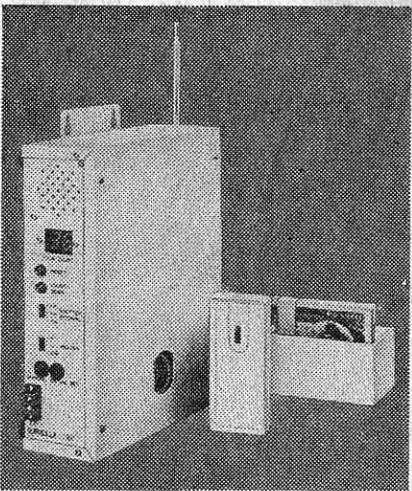


昭和56年12月2日



奥田商事

防犯用カメラ開発

無線マイコン制御方式

【広島】奥田商事（広島市西区横川町一〇ノ一、代表取締役奥田耕造氏、☎〇八三二（93）四五〇〇）は無線マイコン制御、ワイヤレスリモートコントロール操作方式の防犯用カメラ「サーベラ

35Ⅱ写真」を開発、東京綜合警備保障（東京）東洋BGM（同）サントレフォン（大阪）を通じて本格販売に乗りだした。同機はカメラの撮影のほか非常通報器、盗難警報器や各種センサーとの連動もできる。

これまでの防犯カメラはカメラとコントロールを結ぶのにケーブルを使っているため、設置するのに専門業者が必要だった。したがって工費が多くなり、移設するにもケーブルにつながっているため不便だった。さらに価格はこれから普及が予想される小規模の金融機関にとっては割高感があるという。

これに対しサーベラは無線マイコン制御、ワイヤレスリモートコントロールのため配線は不要で、取り付けも簡単。また価格はカメラとスイッチだけの本体は十五万円程度と安い。使用フィルムも一般市販三十五リで、しかもカメラ、

モノクロ、赤外線など、いずれも可能という。このほか撮影もリモコンスイッチの操作ひとつで、コマおよび連続撮影が自由自在、軽量でコンパクトなどの特徴を持つ。

同社では先月、オランダで開かれた国際防犯展へ同機を出品したが、三十カ国余りから引合があったといい、国内外での販売に力を入れる方針。